

化学物質の内分泌かく乱作用（いわゆる環境ホルモン作用）について、環境省は1998年から取組を進めてきました。この間に化学物質の内分泌かく乱作用に関する様々な知見が集積したことを受け、2005年3月環境省は、現時点まで取組の成果をとりまとめ、また、今後の取組指針を示すものとして「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について-ExTEND2005（エクステンド2005）-」を公表しました。

2005年4月からは、このExTEND2005に沿って、総合的な化学物質対策の中で、野生生物の観察、環境実態調査、基盤的研究、試験法開発、リスクコミュニケーションの推進といった、より一層幅広い取組を進めています。

この国際シンポジウムは、環境省が内分泌かく乱作用に関する取組の一環として、1998年から毎年実施しているもので、今年度で第8回目を迎えます。今回から、ExTEND2005のタイトルにあわせ、名称を「化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム」へと改めました。

また、ExTEND2005において、情報提供・リスクコミュニケーションの推進や国際協調の重要性が強調されていることを受け、シンポジウムの位置づけを、一般向けプログラムについては「一般市民の皆様との情報共有の場」、専門家向けプログラムについては「国内外の専門家の方々の意見交換の場」と明確に示し、シンポジウムがより一層有意義なものとなるよう努めています。

この国際シンポジウムが、化学物質の内分泌かく乱作用について、さらに化学物質対策についての情報共有の場として、また専門的な意見交換の場として、広く活用されることを願っています。

2005年11月

事務局一同